



おおさきかみじま
議会だより

第67号/2020年 1月24日

新春

令和元年12月定例会

議長あいさつ	2	委員会報告	10～11
12月定例会	2	委員会視察報告	12～13
平成30年度決算認定	3	叡智学園学校紹介	14～15
5 議員が一般質問	4～9	あれから・編集後記	16



新年のごあいさつ



農業では、スマート農業の実証試験が開始され、島内の指定された園地3か所で2年にわたり実証試験を行っています。

また、大崎クールジェン株式会社では第2段階実証試験CO2分離・回収型IGCC実証事業が進められており、今後は第3段階として、今までの実証設備に燃料電池を組み込んだCO2分離・回収型IGFCの実証事業を計画しています。

「住んで良かった、住み続けたいと思えるような町づくり」の推進に、議員一人ひとりが努力していく所存でございます。

本年もご理解ご協力をお願い申し上げますとともに、今年一年が皆様方にとって実り多い年となるよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

大崎上島町議会議長

信谷 俊樹

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様方には日頃から議会活動に対しご理解とご協力を賜りまして、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は広島県立広島叡智学園が開校し、大崎上島町に活気をもたらしました。また大崎幼稚園と木江幼稚園が統合し、大崎上島幼稚園としてのスタートを切った年であり、教育の島

大崎上島町として新たな起点となった年になりました。

将来を担う人材を育成する「教育の島」として、地元の子供たちに対する就学前教育や義務教育が一番重要であることを念頭に置き、町行政と共にさらなる取り組みを進めてまいります。地域経済の状況としては、本町の産業構造では造船業が主要産業であり近年受注も伸びています。

第4回定例会(12月議会)

大崎上島町議会は、令和元年第4回定例会を12月12日、13日の二日間開会した。

5名の議員の一般質問に始まり、3件の議案、平成31年度12月補正予算を審議・可決した。なお、決算特別委員会より平成30年度大崎上島町一般会計ならびに特別会計の歳入歳出決算認定についての報告があり、全員一致で認定した。

決まった主なこと

- 大崎上島町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 大崎上島町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例
- 大崎上島町財産の交換、譲与、無償貸与に関する条例の一部を改正する条例
- 平成31年度一般会計補正予算(第4号)他 7会計補正予算

平成30年度一般会計

歳入（財源）	78億4366万円
歳出（使いみち）	75億7560万円
繰越金	2億6806万円
実質収支	1億8512万円

*単位：千円以下切捨て。
万円単位で計算しているため、合計が一致しないことがあります。

平成30年度 決算認定

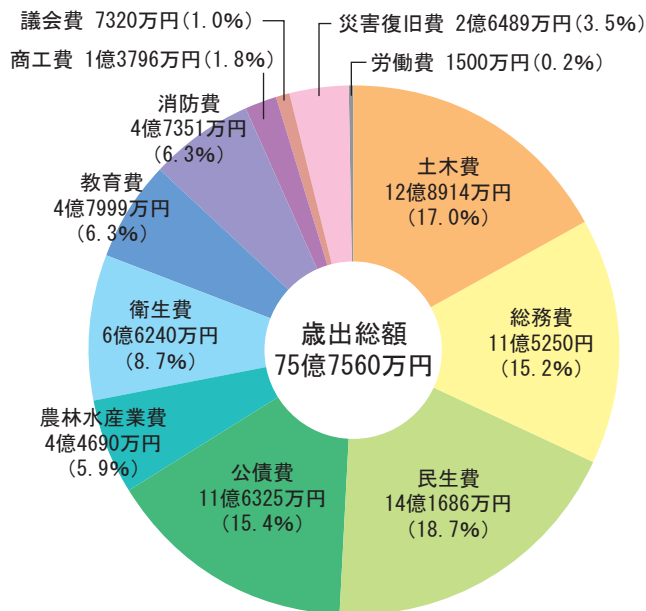
9月定例会において決算特別委員会に付託

平成30年度決算のあらまし

- 歳出決算 一般会計は75億7560万円でした。
- 歳入決算は歳出決算を上回る78億4366万円となりました。

〈一般会計のなかみ〉

町の予算はこのように使われました



特別会計

会計名	歳入	歳出
国民健康保険事業	10億6184万円	10億6160万円
介護保険事業	15億3339万円	14億7600万円
後期高齢者医療保険事業	1億6971万円	1億6837万円
公共下水道事業	1億3474万円	1億3470万円
農業集落排水事業	9324万円	9317万円
漁業集落排水事業	8897万円	8891万円
港湾管理	2244万円	2233万円
漁港管理	375万円	347万円
交通事業	9133万円	9036万円
干拓地管理	6856万円	6856万円
合計	32億6797万円	32億0747万円

水道事業会計

	収入	支出
収益的収支	4億8835万円	4億7281万円
資本的収支	1億525万円	1億1173万円

決算特別委員会報告

平成30年度決算認定される（9月定例会において決算特別委員会に付託）

決算特別委員会が審議した結果、全般的には概ね妥当であると思われる。財政力指数は前年度比較では改善されており、実質収支比率では望ましいとされる3〜5%に収まっている。経常収支比率も漸減の傾向にあるが、町村にあっては75%を超えると財政構造の弾力性を失いつつあるとされているので、継続しての努力を望む。実質公債費比率が18%以上の団体は、地方財政法に基づき地方債の発行に際し許可が必要となるが、これも漸減している。しかしながら町債残高は反転して増加となり、7月豪雨災害を考慮したとしても、財政運営は厳しい状況が好転しているとまでは言えない。

一方、広島県立観智学園が開校し、今後も生徒数は増加していくので機会を逃さず活用すべきである。町の活性化にはある程度の事業・投資も必要であるが、町民への周知・説明が充分ではないと思われる側面もあった。今後町内外からの整備建設事業も見込まれるので、必要な財源の確保や運用する人材の確保・養成が必要である。

決算特別委員会委員

委員長 前田 太
副委員長 上青木 至
委員 越田 賢一
委員 尾尻 康二
委員 閑田 大祐
委員 森若 巖

一般質問

町政を問う

5人の議員が9項目を質問



まえだ ぶとし 議員

質問（前田議員）

役場庁舎前に「人権守つて住みよい大崎上島町」と掲げられている。憲法ではその多くが人権に関するもので、それ故の最高法規だと考える。児童・生徒は人権学習の機会があるが、社会人はどうか。セクハラ、パワハラ、暴言などは大人のいじめだ。特定の個人への責任転嫁や集団での無視、見下しもある。町でも人権対策協議会条例制定などで対応しているが、十分ではない。どのような取り組みをするのか。

答弁（住民課長）

不当な差別や偏見排除には実態を知ることが重要だ。住民の意識調査では後退している。町広報紙での啓発、

問

社会人への人権啓発は

答

背景・実態を把握し推進する

企業・団体を対象の研修会、インターネット上の差別書き込みの監視・拡散防止などを通じて人権尊重社会実現に取り組む。

再質問（前田議員）

社会人である町民の間にはなほだしいハラスメントの事例がある。そのような場合には行政指導は可能か。指導は任意の協力を求めることだが、個々の組織には踏み込み難く反発もあると思う。事例が確認できる場合にはどのように対応するのか。

再答弁（住民課長）

町では人権擁護委員による相談所を2か月に1度開設している。住民課等の窓口においてもさまざまな相

談を受ける。その上でお互いのことを聞いて一番よい方法を法務局と専門家の方と相談しながら解決していく。

問

町の非核宣言の意義と今後は

答

平和の尊さの再認識になる

質問（前田議員）

役場庁舎前に「平和・非核宣言町」と掲げられている。国防は国の専管事項だが、「比較三原則の堅持と共に、あらゆる国の核に反対し、平和で住みよい町づくり実現のため」と宣言を決議した。掲げるだけでは公示送達と変わらない。

宣言でどのような効果があったのか。どのような取り組みをし、町民に対して周知・喚起したのか、今後どのように推進するのか。



答弁（総務企画課長）

看板が来庁者の目につれることで、平和・非核宣言の町であると認識して頂き、平和の尊さの再認識になっていると考える。住民課と教育課が連携して講演、コンサート等の実施による啓発、町・地域女性連合会主催の講演等を行っている。今後もパネル展開催等を検討し、周知・啓発を継続する。



おじり やすじ
尾尻 康二 議員

問 遊休町有地の分譲地への活用は

答 十分に検討し、地元と協議して進める

質問（尾尻議員）
町が保有する規模の大きな土地は多くあり、利用が難しい土地もあるが、整備すれば宅地に活用できる土地もある。千平方メートル以上の遊休地は何件あるのか。また、財産活用検討委員会において当該土地の利活用が協議されているのか。

産利活用検討委員会における協議は平成24年6月29日に開催し、売却可能な土地7件の検討、協議を行った。

再質問（尾尻議員）

Ｉターンや叡智学園の開校に伴う人口の流入もあり、定住用住宅が不足しており、すぐに新築できる優良な宅地も不足している。利便性の高い町の遊休地を宅地に造成し、安価で分譲すれば、定住促進策になると考えるが当局の考え方は。

答弁（総務企画課長）

利用計画の定まっていないう町有地を保有し続けることは適正ではなく、所在、形状、整備に要する費用等を十分に考慮・検討し、住宅用地として整備、売却を進め



たい。現在、定住用住宅の確保対策として空き家活用助成事業及び空き家活用奨励事業を創設、実施するとともに、空き家バンク利用対象の拡大を図るための見直しを進めている。また、定住促進住宅の整備、民間賃貸住宅の整備についても、その方法等を検討している。ほかの町有住宅、民間保有住宅等を柔軟に活用しつつ、住宅及び住宅需要に対応したい。分譲地の造成・整備については、地元と協議しながら進める。

問 スマート農業の実証試験の取組は

答 関係機関と協議しながら実証試験を成功させたい

質問（尾尻議員）

大崎上島町のレモン栽培についてスマート農業の実証試験が今年度より2年間にわたり行われることとなり、同試験は東広島農林事務所が代表者で島内3ヶ所の園地が指定され、行われている。今後の農業の振興、レモン栽培の担い手の育成にも効果の大きい実証試験であり、今後の試験も農業の担い手の参加等に配慮し、有意義な試験となるよう取り組んでもらいたい。試験の概要と参加者から質問は。

答弁（地域経営課長）

スマート農業はロボット技術や情報通信技術を活用して省力化や高品質生産を実現する新たな農業で、労働力の軽減や栽培技術力の継承が期待される。試験の概要は、本年5月からドローン防除の実証や充電式

剪定機械、リモコン式草刈機の実証、アシストスーツの使用実験等を行った。質問事項は各機械の使い方、労働力の軽減状況等多くあるが、推進会議において秘密保持に同意しており、データによる情報は公開されない。農業担い手の見学は数人である。



スマート農業「ドローン防除」 実用化なるか?!



もりわか いわお
森若 巖 議員

問

6,270万円の大崎上島幼稚園改修工事費なぜ3,476万円になったのか

答

工事内容を見直したため

質問（森若議員）

この工事について9月議会で取り上げ工事内訳資料の提出を求めたが、一般質問が終わった後に資料が手元に届いた。一番わかりやすい工事名で説明すると、職員室が20㎡で足場代が36万円。外壁改修工事450㎡で9万円。内装改修工事430㎡で42万3千円であるとの事。参考までに私が工事を施工する場合、養生ネットは㎡200円、足場代は㎡900円、1,000円で見積書が出て来る。また、外壁改修450㎡の着色リシンの吹き付け仕上げにしても、水洗いが㎡200

円割れの補修シーラーの吹き付けをしても㎡2,000円位で見積書は出て来る。そうすると450㎡では90万円位の工事が315万円。どのような積算をするところのような金額になるのか、このような金額を積み重ねたこの事業費の金額6,270万円は信用出来兼ねるものがある。

ところが、11月5日の産業建設常任委員会に事業費が当初より約2,794万円減の3,476万円になったとの説明。入札予定価格3,166万円、10月8日に入札にかけ3,160万円、落札工事費が減になった。理由を質問すると、20㎡増築部分が約2,000万円から1,377万円。内装工事が2,435万円から3,666万円。外構工事が931万円から871万円。空調改修については466万円が0円に見直したので減になったとの説明。

答弁（教育課長）

①概算で算出した額であつて必要な所だけを工事する事とした。
②安全を確保する事と吹き付けで塗料の飛散を防止するために160万円になった。
③今回の工事だけ。

①9月議会で質問をしていなかったら元の金額6,270万円で行っていたのか。
②外壁の足場代が9万円から160万円になった理由は。
③提出してもらつた資料にある足場代は各事業費に按分に振り分けたとあるが、今までもこのような振り分け方をしていたのか。



問

区長が職員OBであり職員の地元のため要望書対応の配慮をしたのか

答 配慮はしていない

質問（森若議員）

区民より要望があり、

うなやり方を世間では「えこひいき」と言う。

答弁（総務企画課長）

県道の見通しの悪さと、避難所に指定しているための緊急性を考えた。

方に提出する。築45年の白水老人集会所の改修を平成30年6月13日に要望したが返答はなく、平成31年度3月議会ですら要望がなかった。原田区長より、令和元年8月1日に提出された西野スポーツ広場の立木の剪定及び伐採については、よほど大きな緊急性があったのか9月議会ですら白水老人集会所の約2・45倍の827万円の事業費がついた。また、令和元年6月3日に出した要望には回答を頂いたが、それ以後の動きはない。2ヵ月も後にした要望書には事業費がつき、このよ

問

西野スポーツ広場の立木の伐採の工事費は

答 適正だ

質問（森若議員）

西野スポーツ広場山側の立木12本処分量60㎡（6,000円/㎡）高所作業車3日（18,000円/日）土砂等運搬（伐採の運搬）60㎡2tダンプで30台分。県道側の立木66本とあるが、私が確認したところ大きな立木は13本、桜の木



が8本、杉の木が12本であり66本と言うのは小さな雑木も数に入れたのか。処分量264㎡、高所作業車は22日（伐採の運搬）264㎡2tダンプで132台分。これで適正と思っているのか。また、この事業見積もりは一社か複数社か。

答弁【教育課長】

見積業者は一社であるが、積算にあたっては森林整備業務の積算基準により算定しており、適正な金額と思っている。



スマホやタブレットに無料アプリ「マチイロ」をインストールすることで、いつでもどこでも議会だよりを読むことができます。ぜひ、ご利用ください。（※議会だよりは定例会後の発行のため年4回です。）



ios



android





みずはし なおゆき
水橋 直行 議員

問 町営住宅建設の今後の計画は

答 しっかり議論しどうにか 建てるべきか考える

質問（水橋議員）
本町は平成15年に旧3町が合併以来、約16年で人口は減ってはい

るが、世帯は10世帯減った地域、逆に13世帯増えた地域、228世帯減った地域と1地域だけ世帯数が大幅に減っている地域があり大きな問題だ。
この事実を踏まえ質問する。
①世帯数の地域格差についてどのように考えているのか、またこのままでよいのか。
②建設候補地はどこに何カ所あり、広さ、立地はどんな差があるか。
③候補地決定に関しての条件は。
④本土や四国等にアク

セスするための棧橋が各地域にあるが、アクセス先に応じて格差をつけているか。
⑤その他、現在の住宅も含め、今後の構想等あれば伺いたい。

答弁（建設課長）

①町営住宅入居世帯が全世帯に占める割合は7%程度で、町内全体を見ても持ち家の世帯が多いため、町営住宅建設が世帯の差に与える影響は少ないと考えている。
②白水地区に1,622平米と沖浦地区1,773平米の2カ所。
③4世帯分が建設可能になる600平米以上、隣接道路幅員4メートル以上、土砂災害警戒区域でないこと、または対策済みであること、

高潮対策等、自然災害の防止ができること。
④、町営住宅は建て替えを基本としていくことから、

港へのアクセスとしては重要視していない。
⑤人口減少が続くと予想されていることから、新規住宅供給の拡大よりも老朽、狭小住宅の改善を重点に置いた住宅政策を行う。人口の流出防止を目的とした定

住促進住宅と、高齢者へ対応したバリアフリー住宅の必要性もあり、建て替えに合わせた高齢化対策も促進し、また民間住宅建設の活用も検討していきたいと考えている。

再質問（水橋議員）

以前確認した時は高田酒造跡地約2,000平米も

入っていると聞いたが外した理由は何か。

答弁（町長）

一般向けの入る住宅は2カ所で、危険住宅の柿ノ浦を移転するための住宅地併せて3カ所。

再質問（水橋議員）

①7%は大きな差はない、あまり人口増等々には関係ない数字と言われたが実際に差がないと思うか。
②柿ノ浦団地移転について諸問題はあると思うがいつからの話か、また危険住宅を放置状態になっているがこのままにするのか。

答弁（建設課長）

①7%が大きい小さいかという話になると非常に難しく、いろんな見方があるのでお答えは差し控える。
②柿ノ浦団地建て替え事業が、何年から始まったかは今把握していない。

町の施策として危険住宅を放置しておくわけにはいかないため、建て替えの計

画を押し進めるといいう方針町営住宅については補助金があるので、早くても3年後の建て替え計画を進める。

答弁（町長）

まちづくりの観点も含めて執行部も案を提案し、議員の皆さんとこれから協議をしていき、将来にわたって大崎上島町が、どうあるべきかということをしつかり議論していく。その中で住宅はどこに建てるか考えるべきだと思っている。



建て替え待ったなし！（柿の浦団地）



かんた だいすけ 閑田 大祐 議員

問 公共事業における労働者の環境改善を

答 実態に合わせて改善する

質問（閑田議員）

改正働き方改革関連法が施行され、民間企業では有給休暇や労働時間に関して見直しが行われている。時間外労働には上限が設けられ、労働者の労働条件の改善が進められている。

建設業界では、労働条件の改善がなかなか進んでいないが、それでも今回はかなり改善されつつある。しかし、他の業種と比較した場合はまだまだ遅れていると感じる。進まない理由は2つある。

1つ目は労務単価の設定方法にある。その積算根拠においては時間当たりの生産量まで

厳密に計算され、1日あたりの労務単価を算定している。

そして、長らくマスコミ等が作り上げた「公共事業＝悪」のようなイメージの影響もあり、労務単価は下がる一方であった。そのような状況下で、働く人は労働日数を増やさないと生活できない、という状況も生まれている。近年は改善されつつあるが、それでも他の業種と比較するとその水準は低い。

2つ目は工期の算定基準である。金額に応じて標準工期を設定しているが、土木工事の現場はたとえ金額が同額でも、現場ごとに条件の違いがあるため全く同じように施工が進むことはない。また、建築工事で近

年多く見られるのが、施主が専門家の意見聴取もせず「来春オープン」というようなゴール設定をしてしまっている。工期が圧迫されるケースである。

こうして、労務費の水準が低いことや工期が圧迫されることなどにより、週休2日などとは程遠い環境が生まれている。

国や県が定めるものもあり、町単体で対応できることは限られるが、町として改善できることをどのように対処するのか、見解を伺う。

答弁（建設課長）

工事の積算に用いる労務単価は公共工事設計労務単価を使用せざるを得ないが、労働者の環境改善に影響す

る社会保険の加入状況は施工体制台帳で確認している。長時間労働の是正は、現場状況に応じた適切な工期を設定している。

再質問（閑田議員）

国や県の事業では週休2日制を採用した工事で、経費率加算によって休暇取得を推進している。通常、町は国や県に準拠して事業を行うが、町は実施しないのか。

答弁（建設課長）

公共事業の週休2日制の推進については、国や県の実施している経費率の加算について、来年度から実施していきたい。

お知らせ

- 本庁・各支所ロビーのテレビまたはインターネットで議会生中継がご覧いただけます。
- ※インターネットをご利用の場合はホームページの注目記事「○○議会ただいま生放送中」をクリックしていただければご覧いただけます。
- ※録画の視聴は町議会メニューの議会録画中継配信でご覧いただけます。

議会傍聴をしてみませんか。

次回の定例会は**3月**です

日程は町内放送・ホームページでお知らせします。

総務福祉文教常任委員会報告

委員長：閑田大祐 副委員長：渡辺年範
委員：越田賢一 道林清隆
前田 太 水橋直行

大崎上島町議会9月定例会以降に開催した、委員会での主要な調査、協議事項及び、継続審議した内容と事業内容の審議について報告します。

○県立安芸津病院

厚生労働省が9月26日、「地域医療構想に関するワーキンググループ」に対し、公的医療機関の再編統合を検討するよう求め医療機関の一覧を示し、これが報道されました。これを受け、本町および周辺地域の医療の実態について調査を行いました。

広島県は、第7次広島県保健医療計画において、「2025年には団塊の世代の方々が75歳以上となり、人口の3割以上が65歳以上の高齢者となります。今後、この超高齢化社会が進行するにつれ、医療や介護を必要とする方がますます増加すると推計されます」としており、2025年を見据え、

①病床機能の分化及び連携

の促進による質の高い医療提供体制整備

②在宅医療の充実をはじめとした地域包括ケアシステムの確立

③医療・福祉・介護人材の確保・育成

を基本方針とする「広島県地域医療構想」を平成28年に策定しています。

こうした中、県立安芸津病院は地域政策医療を担っていて、厚生省が今回示した対象医療機関には含まれていませんが、大崎上島町の地域医療に大きな役割を担っているため、今後の動向に注視する必要があります。

小泉政権時代、「民間で出来ることは民間で」というキャッチコピーで、さまざまな公的機関が集約、あるいは民営化されましたが、過疎化により経営の成り立たない診療科目も増加した今、地域医療における公的医療機関の重要性は、改めて認識する必要があります。

○インターネット差別書込みに対するモニタリング

情報化の進展に伴い深刻化するインターネット掲示板等への差別的な書込みについて、住民課で定期的な監視を行い、悪質な書込みを発見した場合はサイト管理者に削除依頼を行い、差別書込みの早期発見および拡散防止を図ることとなりました。

大崎上島町内の個人が特定され、その名誉と社会的信用が侵害されるものなどが対象となります。

○大崎幼稚園跡地

今年度より大崎上島幼稚園として2園を統合し、廃園となった大崎幼稚園の跡地利用について、教育委員会でもさまざまな議論が行われてきましたが、広くあらゆる分野で活用できるように総務企画課に所管替えし、利活用が検討されることとなりました。

○広島中央エコパーク

令和元年10月現在、地盤改良工事および基礎工事を完了し、躯体工事を進めています。

高効率ごみ発電施設は11月よりプラント工事に着手、令和3年10月の供用開始を目標として事業を進めています。



まずは耐震化から…（県立安芸津病院）



広島中央エコパーク
完成予定図

産業建設常任委員会報告

委員長：尾尻康二 副委員長：森若 巖
委員：上青木至 信谷俊樹
浜田明利 浜田幸造

令和元年9月定例会以降の委員会報告をします。各課から12月定例会で議案となる条例案、補正予算案、主な繰越事業の進捗状況などの説明を受けて審議をしました。

○大崎東地区畑地帯総合整備事業の進捗状況

総事業費は当初の9億円から3億円増え12億円の予定で、令和3年度には完了の予定です。今年度、中央工事区の客土を完了させて入植の予定です。

○県道循環線道路の進捗状況

現在施行しているのは天満地区、明石地区、大田地区です。沖浦地区は土地買収済みで、今年度工事予定でしたが、災害工事優先のため執行保留となっています。

○当町にカーボンリサイクルの研究拠点設置を検討

経済産業省が石炭火力発電所から回収した二酸化炭

素で飛行機などの燃料をつくる技術を開発するため、来年度当町に研究設備を整備する検討をしています。大崎クールジェンの発電所に設ける方針です。今後の推進を期待しています。

○体験型修学旅行生の受入のお願い

現在、修学旅行生の受入は1校で280名を上限としています。秋時期からの受入は関東地区の高校の受入となり、ほとんどの高校が280名程度の生徒数となっています。受入家庭も高齢化等により減少傾向で、事業継続には受入家庭の確保が大きな課題となっています。町民の皆様の協力を宜しくお願いします。

○地積調査事業の進捗状況と今後の予定

対象面積は45・11km²に対し、実施済みは17・23km²で、進捗率は40%です。令和2年度以降沖浦地区から明石地区を実施し、令和11年度に最後となる草木地区

に着手し、耕地部の調査を完了する予定です。

畑地帯総合整備事業



○大崎上島町プレミアム商品券事業

申請対象者は非課税世帯対象者が1416世帯1560名、乳幼児世帯が91世帯105名ですが、申請があったのは302世帯400名です。商品券の交換となりますが、1810セットのうち交換率は約26%と低調です。

商品券の購入期限は令和2年1月末で、交換期限は

2月末となりますので、手続きをお急ぎ下さい。

○大崎上島町上下水道事業経営審議会

11月21日に第5回上下水道事業経営審議会を開催し、上下水道課が改定について算定した水道料金と下水道使用料の審議を行いました。委員の欠席者が多く、次回、1月の審議会において改定の方向性を決定します。今年10月が委員会の任期ですので、8月末の答申を予定しています。



プレミアム商品券

総務福祉文教常任委員会行政視察報告

委員長：関田大祐 副委員長：渡辺年範
委員：越田賢一 前田 太
水橋直行

総務福祉文教常任委員会は、令和元年11月18日～20日に北海道南幌町と新十津川町で行政視察研修を行いました。今回は子ども子育て会議の開催を受け、子育て支援をテーマとしました。

☆南幌町

南幌町は人口7515人、3454世帯(R1.6.1)の町で、札幌から東へ車で約40分の位置にあります。

南幌町では町のスローガンとして「育てる喜び、育む幸せ」を謳い、さまざまな事業で子育てを応援しています。特に「南幌町子育てガイドブック(なんぼろのびのび子育て)」は51ページにもおよぶ冊子で、乳幼児から高校までおよび子育て目線からの情報発信などとても興味深く、充実した内容となっています。ファミリーサポートセンターは、子育てに協力してほしい会員を協力したい会員がサポートする組織で、幼稚園・保育園・学童保育などへの送迎や保護者の外

出時の預かりなど、さまざまな場面で利用できるようになっていきます。

また、子育て世代のマイホームづくりを支援するため、平成28年より「南幌町子育て世代住宅建築費助成事業」を開始しました。子育て世代に限定した助成を行うことにより、まちの活性化を促し人口減少の抑制及び定住の促進を図っています。



☆新十津川町

札幌から北に電車で1時間20分の新十津川町は、人口6667人の町で、明治22年に起きた奈良県吉野郡十津川村での十津川大水害の被災民がトック原野に入植してできた町で、町章も同じものを用いるなど、奈良県十津川村と現在でも深い交流を持つ町です。

子育て支援では、第3子以降の保育料・給食費の無料化、妊婦検診・超音波検査費の助成、子供医療費助成では高校生まで無料とするなど、さまざまな少子化抑制策を図っています。

また、妊婦や高校生以下の子供がいる家庭に町内限定ポイントカード(得きつずカード)を子供の人数に応じて交付し、加盟店で買い物をする時100円で1ポイント貯まり、満点(500P)になると5000円の買い物ができる仕組み



です。

ライフスタイルや社会の多様化により、結婚しないという価値観や晩婚化など、少子化をめぐる課題は山積んでいます。

本町でも少子化の進行は加速しており、また特効薬もない中で、地道に取り組んでいくほかありません。今回訪問した2町の施策を参考に、より効果的な少子化対策ができるよう、努力していきたいと思えます。

産業建設常任委員会行政視察報告

委員長：尾尻康二 副委員長：森若 巖
委員：信谷俊樹 浜田明利

産業建設常任委員会は10月23日から25日まで、「持続可能な島づくり」として各自自治体より注目を集めている沖縄県宮古島の振興施策について行政視察を行いました。

島全体をエネルギーパークとして位置づけ、「エコパーク宮古」を中心として様々なテーマを持ったエリアを回りながら新エネルギーを体験できる視察コースを体験しました。

最初に「エコパーク宮古」を訪問し、宮古島市企画政策部エコアイランド推進課の担当者よりエコランド宮古島の取組の概要について説明を受けました。

その後、太陽光施設が一望できる「メガソーラー展望台」、地下ダム資料館、市街地型エコハウスを現地視察し、説明を受けました。

最終日には資源リサイクルセンターを視察し、施設の担当者より説明を受けました。その後、伊良部大橋、来間島展望台、下地島ターミナルを回り視察を終えました。

地下ダム灌漑整備事業

過去に干ばつなどによる大打撃を受けてきたことから、豊富な地下水を利用することによる水無し農業からの脱却を目指し、透明性の高い琉球石灰岩の地下に止水壁で貯水ダムを建設し、水源開発を実施しました。地下ダム資料館で概要が見学できます。



「エコランド宮古島」とは

いつまでも住み続けられる豊かな島を築くため、持続可能な島づくりを推進。

エコランド宮古島推進計画

○環境保全

- ・ 地下水の保全
 - ・ サンゴの海の保全
 - ・ ゴミ対策
 - ・ 生物多様性
- 資源循環
- 産業振興

取組推進事業等

- ・ 電気自動車普及促進事業
- ・ エコハウス普及啓発事業
- ・ 天然ガス活用推進事業
- ・ エコアイランド宮古島ブランド化推進事業

現在、宮古島は観光を軸に地域経済は極めて活況ですが、急激な変化にオーバートリズム等の懸念のほか、家賃高騰や店舗における混雑等、市民生活への悪影響も顕在化しています。この変化を成長機会と捉え、活かしていくためには地域経済の流れを分析・把握した上で、多くの市民に恩恵を波及し、市民生活の具体的な改善に繋げていく必要があるとの説明がありました。

バブルとも言える経済の活況を羨ましく感じましたが、日本の最南端部にある

島で当初は限られた水資源を守るため環境保護施策を始めましたが、美しい自然環境の保全を図ることで島の価値を高め「持続可能な島づくり」を行うという行政による様々な環境保全施策、振興施策の成果が上がっており、観光・産業の振興に繋がっています。注目の集まっている地域の現状を視察でき、参考となりました。大崎上島町と宮古島市とは人口、面積、地域経済の規模の違いはありますが、当町の観光・産業の振興施策に生かしていきたいと思えます。



From

広島叡智学園

感想Aさん

僕はこの10ヶ月大崎上島で生活して自然の豊かさと島民の方々の温かさを感じました。大崎上島は神峰山や美しい海岸など、他の場所にはない美しい自然が沢山あります。また、海がとても近くにある事は埼玉県民であった僕にはとても新鮮な事でした。神峰山からの景色もとても素晴らしく、島とその周りの海が一望できると素晴らしい場所だと感じました。僕は学校の授業やイベントで大串地区の地域の方々と関わらせていただきましたが、どの方もとても温かく僕達に接してくださいました。また、島の様々なイベントにも参加させていたでいて、より一層島民の方々の温かさに触れる事が出来たと思えました。これからの6年間の生活でも、大崎上島の自然と島民の方々とたくさん関わっていききたいと思えます。

感想Bさん

私は、広島叡智学園への

入学をきっかけに大崎上島で生活し始めました。東京から大崎上島に移って、まず自分にとって一番大きかったのは自然の豊かさです。自分の故郷である世田谷には大きな公園などがあり、自然豊かな場所もありましたが、大崎上島は学校のそばに海、山などがあって自然に囲まれた最高の環境だと知り、毎日自然豊かな環境で学習できています。またその豊かな自然から生まれた美味しい柑橘の果物は絶品でした！また、自分への影響が大きかったのは島民の方との関わりです。今まであまり地域の方との関わりがなく、挨拶を交わすだけというような関係でしたが、大崎上島にきて、優しい方がたくさんいらっしゃるし、声をかけることができ、そのまま初対面の方でも話をする事ができるようになりました。また、それを東京に戻っても生かすことができました。このように、自然いっぱいの大崎上島で島民の方々と

良いコミュニケーションをとりながら過ごす「大崎上島ライフ」は最高です。広島叡智学園を卒業する頃には大崎上島が「第二の故郷」になるように、今後も充実した生活を送っていききたいと思えます。



感想Cさん

去年の4月から大崎上島で生活していますが、最初に感じたことは地域の方がとても優しいなということです。地域の学校の前の方に

チューリップを植えてくださったり、餅つきを計画してくださったりとても優しい方ばかりです。最初の頃は「広島叡智学園の子よね。これからよろしくね。」と声をかけてくださったりしました。

また、たくさんの方々の自然の中でとてもゆつたりと過ごすことができず。島で育てたみかんやレモンをいただくことがありますが、とても美味しいです。未来創造科の授業で農業をされている方の話をうかがった時、無駄になるものが少なくなるようにレモンだったら皮までジャムに入れて使ったりと、きちんと全てを使い、自然を守るよう努力されていてすごいなと感じました。そして大崎上島の生活の中で一番感じたことは、地域の方々の連携が強いことです。地産地消を心がけていたり、何かがあったらみんなが心配して声をかけてくださったりと本当にありがたく感じています。

学校紹介

感想Dさん

大崎上島に初めてきた時の第一印象は、自然が豊かである。東京や福山に住んでいた時は想像すらできなかった、視界の中の至るところに入ってくる緑の色がなんとも言えなかった。さらにこの広島叡智学園は寮生活。みんなホームシックにかかっていた。そして行き帰りの船は必須。島に橋はかかっているものだと思っていた。

そんな私はいつか、地域の方のビニールハウスにトマトを収穫しに行ったことがある。私自身あまりアウトドアは好きではなかったが、トマトは好きなので行ってみることにした。あの時のトマト農園はとても楽しかったのを覚えている。大きく、太陽の光をいっぱいに浴びたトマトはしっかりと頬をそめ、私たちを見つめていた。私には感動のような、嬉しいようなそんな感情があった。きっとその地域の方も同じような感情だったのかな、と今では思

う。採集した後はその方のお宅で採集したトマトを頂いた。とても甘く、みずみずしかった。お菓子もくださった。その時に私の中で大崎上島のイメージはとても温かい人たちが住んでいるんだなというイメージへと変わった。さらに島民の皆様は私達にとっても親切にしてくださった。いろいろなことを企画してくださった。いつも見守ってくださった。今では本当に感謝している。

もう一つイメージが変わった大きな日があった。インターシップの観光業で島をPRした時だ。トマトの収穫の日から、私は島がちよっと好きになった。そして、様々な人と出会い、発見をした。夏休みの一週間前には家族と一緒に、気になっていた神峰山に行ったりもした。観光案内所の方々をはじめとした島のいろいろな方々には学校の未来創造科の授業内でたくさんお世話になった。島内のそのような方々やスポット

をテーマに沿ってPRするというのが今回のインターシップのテーマだった。私達のチームは外国人向けのプランを考えた。メンバーの意見で体験型とSNS発信を柱とした観光にすることとなった。当日。私たちは疲れながらも、自転車で島を巡った。自転車で巡っていると島の風が私の横を通り抜ける。磯の香りに包まれた、大崎上島の海の色をしているように透き通った風。体験することで自分たちで感じ、発見することができた。岩白地区の白い岩と海。中原観光農園の太陽をいっぱい浴びたみかん。観光案内所のみかん葉の鯨。珈琲陶での陶芸体験……

このインターシップで私は島への愛着が湧いた。いや、元々湧いていた気もするのだが、この時に自身の心に何かがこみ上げてきた感じがしていた。この感情は、おそらくその愛着とかいう感情なのだろう。こんなに大袈裟に言っている

が、今まで思っていた大崎上島のイメージがさらに広く、深く掘り下げられた感じだった。

日本には「住めば都」ということわざがある。大崎上島もまさにそうだなと思った。大崎上島には良いところは山ほどある。それを八ヶ月間で気づかせてくれたこの島の方々には本当にありがとうと言いたい。あと五年間、この島で過ごす時間を大切にしていこうと思う。

この綺麗な海を、山を、温かい人々を、お日様を、空を、『大崎上島』を。

次の広島叡智学園生に。世界中の人々に発信していく。



追跡 あれからどうなった

(平成15年6月定例会一般質問から)

質問

役場機構の早急な見直しを

回答

住民のサービスが低下しないよう
一定の時期に見直しを

平成15年4月1日、新設合併により誕生した大崎上島町の役場の組織体制は、21課43係(教育委員会事務局等含む)でしたが、合併以後、簡素で効率的な行政運営と重要施策の一層の推進等を図るため、現在、10課26係(教育委員会事務局等含む)の組織体制としています。

今後も住民サービスが低下することのないよう、また時代の流れに則した役場組織の再編強化を図ってまいります。また、令和元年



9月からは、よりよい住民サービスを提供できるよう本庁住民課の窓口時間の延長を始めています。

編集後記



新年明けましておめでとうございます。令和の時代となり、初めての新年を迎え、町民の皆様も新しい時代に向けて気持ちを新たにされていることと思います。昨年は広島叡智学園が開校しました。学園の整備が進み、大串の干拓地はすばらしい風景となっております。「教育の島」のシンボルとして、毎年4月に新入生を迎えるもので、今後も町の活性化に大きな期待が持たれます。今回、叡智学園の紹介として4名の生徒さんに代表して学園生活等について書いてもらいました。生徒さんの思いが詰まっています。是非、一読して下さい。表紙には、1月12日に行われた出初式の模様を載せました。温暖化の進行により災害も激甚化しており、消防団の役割は大きくなっております。表紙の通り出初式

の消火風景は見事でした。町民の安全・安心を守ってくれる活動には敬意を表します。

今年はおリンピック・パラリンピックの年で、大会には多くの外国人が来日します。当町にも多くの外国人が造船業、農業等の労働者として働いています。少子・高齢化の時代で労働力として、大きな役割を果たしています。これから相互理解を進めていくことが重要と思います。

また、我々議員は改選まで1年となり、次回の選挙は定員が2名減の10名となります。残りの任期を執行部とともにさまざまな町政の課題解決に向けて取り組んで参りますので、町民の皆様への町政へのご意見等お聞かせ頂き、ご理解とご支援をよろしく願います。

(〇)



大崎上島町議会

TEL(0846) 65-3130(直通)

FAX(0846) 65-3117

〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野6625-1

URL:<http://www.town.osakikamijima.hiroshima.jp/>

議会広報委員

委員長

閑田大祐

副委員長

水橋直行

委員

上青木至
尾尻康二
越田賢一
森若巖